

第4回 広域ごみ・汚泥処理施設整備検討委員会まとめ（要点筆記）

《開催日》 平成22年3月29日（月） 午後2時00分から
《場 所》 豊岡市立図書館 視聴覚室
《出席者》 委 員：寺嶋均、市川陽一、松永正博、池田登志、
山村紀久子、尾崎美津人、梅林耕一、
杉本章、中田隆子、垣江重人（敬称略）
組 合：施設整備課職員 8名
中外テクノス 3名
ウエスコ 2名 合計23名

《内 容》 委員会次第

- 1．開会
- 2．報告事項
事業の進捗状況等について
生活環境影響調査測定結果について
- 3．協議事項
施設整備計画方針について
その他
- 4．その他
次回の開催日について
- 5．閉会

【質問・意見等】

生活環境影響調査測定結果について

Q：CO₂と空気のどちらが重たいのか。

A：CO₂の方が重い。大気中では他の物質と混合するため、実際にはCO₂だけが分かれることはない。

Q：煙突の高さは決まっているのか。

A：煙突の高さは、航空法、景観、拡散の3点から考慮しなければならない。

Q：調査項目選定の根拠等について全体像が分かりにくい。

A：本日の資料は、現在作成中の報告書から一部抜粋したものである。5月中旬に告示、縦覧を行う予定であり、最終報告書には全て掲載します。

- ・調査結果は妥当なものであり、この地域の環境は良い現況にあると思われる。

広域ごみ・汚泥処理施設周辺整備計画方針について

- ・整備等に当たっては、施設の中と周辺に分かれると思われるが、全体的な枠組みとしてどうまとめるのが良いか。
- ・施設の中では環境教育的なもので、自然との調和的なものが施設の周辺になるのではないか。
- ・共存と共生をどう捉えるか。
- ・施設の中と周辺のことについては、基本理念では包括的なことを挙げて、基本方針の3つの柱の中で、内部の事と周辺の事で具体的な事を考えていく方法もあるのではないか。
- ・基本理念の中で「創造」とあるが、誰が見ても分かるように環境の保全と再生にした方が良いのではないか。
- ・「創造」には、放置された自然をどうするのかも含まれており、再生を通してどの様に守っていくのかという事も入っていると思われる。
そのように捉えると基本理念はあまり噛み砕かないで、基本方針で具体的なものにしていけば良いと思う。
- ・共存と共生では、共生の方が重きを置くもので、人間と自然がお互い尊重し合うという定説的なことで共生を使われる場合もある。
- ・一般の人達に理解をしてもらうためには、解説を付けるとかはできないか。
- ・理念の環境創造と、環境学習とは次元が異なったものであるため、間に何か言葉が足りないのではないか。
- ・理念は考え方の基本であり、方針はそれを具体化したものである。
- ・基本理念で交流拠点づくりは最終目標ではない。最終目標は環境創造になるのではないか。

- ・交流拠点づくりを入れたのは、従来型のこういう施設は迷惑施設であると受け取られており、そういう考え方で造るのではないということのアピールと、地元の方々は雇用や収益の部分も期待をされていることもあり、交流がなければ、そのようにはならないということから交流拠点づくりという言葉を入れた。
- ・基本理念と基本方針については、持ち帰って考えをまとめる。
- ・具体的なことはこれから考えていくことであるため、3つの枠組みにすることについては、これで良いと思う。
- ・環境創造をするためには、どうするのかを考えてタイトルを付けていけば良いのではないか。
- ・交流を図るにはリピーターをつくらなければならないが、活動を考えると無償のボランティアは続かない。例えば、竹炭を作って持ち帰ることができるか、近隣の山の竹の子を採らせてもらえとかの利益を考えなければリピーターはできない。
- ・来た人が得をして帰れるようなことをしないといけない。「心で得した。」の時代は過ぎている。
- ・地元にも雇用と収益があり、来た人にも利益があることをしなければいけない。それがお金をあまり使わなくても良い一つの方法ではないか。
- ・賑わいの場を創造するのではなく、場を提供することによって環境創造にというふうなことで、「場を提供する」の方が良いのではないか。
- ・リピーターを増やそうと思えば、場の提供がないと増えない。場があり、来て良かったと思えることがなければならない。創造する以前に提供する部分があってリピーターが増えると思う。
- ・賑わいではなく、「集いの場を提供する」の方が良い。
- ・得というのは、お金ではなくて、竹の子を採っても良いとか、地域の方との繋がりによって、おいしい食材を貰って良かったから、また行こうかだとかいうものであるので、集いの場で良いと思う。
- ・基本理念で環境創造があるので、新しい環境を創り、資源の大切さを学ぶとしてはどうか。
- ・ごみ処理を通じて、資源と環境を学ぶとしてはどうか。
- ・ごみを適正に処理する段階でリサイクルは必要であるため、その項目が入っても良いのではないか。
- ・語尾は「場を提供する」で統一した方が良い。
- ・項目に「廃棄物の適正処理、リサイクルを通じ、資源・環境問題を学ぶ」を追加する。
- ・「野生動植物等と共存・共生を図る」は表現がおかしいので、「生物多様性を図る」が良い。
- ・基本理念と基本方針については、意見があれば事務局に提出していただく。